

ルイス・ブニュエル

Luis Bunuel

生年月日 1900/02/22

出身地 スペイン／アラゴン州カランダ

没年 1983/07/29

関連人物 フアン・ルイス・ブニュエル（息子）

【バイオグラフィ】

■大学時代にロイドやキートンなどの喜劇映画に興味を抱き、パリに出てから映画批評を書くようになる。やがて助監督を経た後、画家のサルバドール・ダリと共同で脚本を書いた短編「アンダルシアの犬」を監督する。ショッキングでアバンギャルドな演出が話題となり、30年の「黄金時代」では宗教やブルジョワジー層を皮肉った。46年にメキシコに渡り、50年に「忘れられた人々」でカンヌ映画祭監督賞を受賞。63年の「小間使いの日記」以後はフランスに活躍の場を移した。25年に結婚。息子のフアン・ルイス・ブニュエルは監督になった。83年、肝硬変のために死亡。

【フィルモグラフィ】

| | |
|---------------------------------|------------|
| 欲望のあいまいな対象 (1977) | 監督, 脚本 |
| 自由の幻想 (1974) | 監督, 脚本 |
| ブルジョワジーの秘かな愉しみ (1972) | 監督, 原案, 脚本 |
| フランコ・ネロとナタリー・ドロンの サタンの誘惑 (1972) | 脚本 |
| 哀しみのトリスターナ (1970) | 脚本, 監督, 製作 |
| 銀河 (1968) | 監督, 脚本 |
| 昼顔 (1967) | 監督, 脚本 |
| 砂漠のシモン (1965) | 監督, 脚本 |
| 小間使いの日記 (1964) | 監督, 脚本 |
| 皆殺しの天使 (1962) | 監督, 原案, 脚本 |
| ビリディアナ (1960) | 監督, 脚本 |
| 若い娘 (1960) | 監督, 脚本 |
| 熱狂はエル・パオに達す (1959) | 監督, 脚本 |
| ナサリン (1958) | 監督, 脚本 |
| この庭に死す (1956) | 監督, 脚本 |
| それを暁と呼ぶ (1956) | 監督, 脚本 |
| アルチバルド・デラクルスの犯罪的人生 (1955) | 監督, 脚本 |
| 河と死 (1954) | 監督, 脚本 |
| ロビンソン漂流記 (1954) | 監督, 脚本 |
| 幻影は市電に乗って旅をする (1953) | 監督, 脚本 |
| エル (1953) | 監督, 脚本 |
| 嵐が丘 (1953) | 脚本, 監督 |
| 乱暴者 (1952) | 監督, 脚本 |
| 賭博師の娘 (1951) | 監督 |
| 愛なき女 (1951) | 監督 |

allcinema

| | |
|-----------------|----------------|
| 昇天峠 (1951) | 監督, 脚本 |
| スサーナ (1950) | 監督, 脚本 |
| 忘れられた人々 (1950) | 監督, 脚本 |
| のんき大将 (1949) | 監督 |
| グラン・カジノ (1946) | 監督 |
| 糧なき土地 (1932) | 監督, 脚本 |
| 黄金時代 (1930) | 監督, 脚本, 編集 |
| アンダルシアの犬 (1928) | 出演, 監督, 製作, 脚本 |